

Fukuoka University MEDICAL SCIENCE NEWS

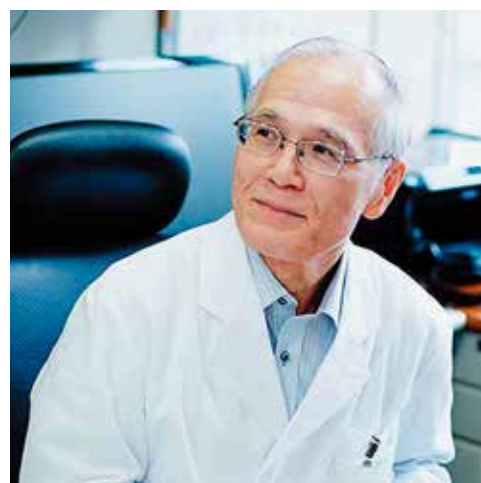
No. 75

編集・発行
福岡大学医学会
福岡大学医学部内

福岡大学医学会ニュース

退職にあたって —“How to”だけでなく—

福岡大学名誉教授 坂田 則行



私は前任地の群馬大学を経て昭和62年1月に福岡大学医学部助教授として赴任し、以来30年間福岡大学医学部での教育、研究、診断業務に従事し、平成29年3月31日をもって早期定年退職いたしました。この間、福岡大学医学会会員の皆様に支えられ、無事大学での役目を終了できましたことに深く感謝申し上げます。

前任の大学との違いを感じた大きな点のひとつは教育の在り方でした。福岡大学では担任制がひかれ、受け持った学生と日常的に接する機会が与えられました。時には一緒に学生と飲み会をしたり、相談を持ちかけられることもあり、講義と試験だけをしていればよかった前任の大学とは全く異なる家庭的な雰囲気であったことは、教育に楽しく取り組めた理由の一つでした。また、思い出深いことのひとつは、岩崎宏医学部長の時代に国際センター委員として守山正樹教授とともに、韓国大邱市にある啓明大学とベッドサイド中心の医学生交流を行い、姉妹校協定

締結へと発展させたことです。

最近、CBTやOSCEなどの卒前全国試験の導入、医学教育の国際認証など、医学教育をめぐる環境は、私が福岡大学に着任した頃とは大きく様変わりしてきていると実感しております。しかし、そのため、それが度を越して医学の思想や基礎医学の理論、原理をわきに置き、全国試験や医師国家試験対策に熱心になってしまう余り、“How to”に力を注ぎ過ぎることに若干の憂慮を感じています。

大学を取り巻く環境は厳しくなるばかりですが、広い視野と高い専門性、尽きないリサーチマインドを持った医師を育てるためには、大学本来の学術中心の教育とは何かを追究し、実践していくことが重要ではないかと思っております。その中心的存在のひとつである福岡大学医学会が、今後ますます発展しますことを祈念し、退任の挨拶といたします。

想いで深き 福岡大学医学部

福岡大学名誉教授 山下 裕一

1994年5月に福岡大学医学部外科学講座第二の助教授として福岡大学に5月に赴任し、今年の3月末日までの23年近く消化器・一般外科の診療・教育・臨床を担当して参りました。この間、第一外科と第二外科の統合再編があり、消化器外科と呼吸器・乳腺・小児外科に改編されました。第一外科と第二外科の教室員の合同による消化器外科運営は、初期は順風満帆な滑り出しとはいえませんでした。多くの先輩方のご支援により、それなりに形を整え今日に至ることができました。誠に有り難く感謝致しています。

医学部研究棟前庭の美しい桜を退任するまで22回観たことは、私にとり何よりの思い出です。病院に隣接するため患者さんや職員、そして新入医学生が皆が観る桜であり街路の桜とは異なる趣がありました。私にとり毎年出会うこの桜の美しさは格別であり、夜遅くの帰宅時にも必ず桜の花の下を歩き、教室員皆で集合写真を撮ることが楽しみでした。多くの方々はそれぞれの想いを抱き桜花の中を歩かれたことと思います。

過ぎ去りし
福岡大学時代
に思い出が甦

る大切な先生方がおられます。上司の教授である白日高歩先生は言うまでもありませんが、その他に大学人であり優れた医療人であり、福岡大学や医学部を愛し、所属する教室の違いにかかわらず若い医師を可愛がられていた先生方です。小児科教授の故満留昭久先生、生化学教授の故松岡雄治先生、解剖学教授の故三好萬佐行先生、そして放射線科の岡崎正敏先生です。先生方はいつも私に声をかけ、多くの時間を費やしいろいろな話をしてくださるだけでなく、大局的に福岡大学医学部の将来や理想像を話して下さいました。共に大変個性豊かな先生方でありましたが、大学人としての考え方について身をもって示して頂き、生涯の宝となりました。

最後になりましたが、23年お世話になりました福岡大学医学会の益々のご発展を祈念いたします。



福岡大学医学会 第76回例会および第40回総会（報告）

■日時：平成29年9月26日（火）17:30～19:10 ■場所：医学部臨床大講堂

1. 福岡大学医学会第76回例会

【進行】集会幹事 小玉 正太

- 1) 開会の辞 集会幹事 小玉 正太
- 2) 会長挨拶 医学部長 朔 啓二郎
- 3) 第19回福岡大学医学会賞受賞論文講演（講演10分 質疑応答含む）
 - ① 講演者…森下 登史 座長…井上 亨
Changes in Motor-Related Cortical Activity Following Deep Brain Stimulation for Parkinson's Disease Detected by Functional Near Infrared Spectroscopy: A Pilot Study
 - ② 講演者…仲村 佳彦 座長…岩朝 光利
Recombinant human soluble thrombomodulin ameliorates cerebral ischemic injury through a high-mobility group box 1 inhibitory mechanism without hemorrhagic complications in mice
 - ③ 講演者…福田 高士 座長…柳瀬 敏彦
Augmented Growth Hormone Secretion and Stat3 Phosphorylation in an Aryl Hydrocarbon Receptor Interacting Protein (AIP)-Disrupted Somatotroph Cell Line
 - ④ 講演者…後藤 昌希 座長…三浦 伸一郎
Rivaroxaban, a factor Xa inhibitor, induces the secondary prevention of cardiovascular events after myocardial ischemia reperfusion injury in mice
- 4) 第19回福岡大学医学会賞金賞論文投票
- 5) 新任教授講演（講演25分 質疑5分）
講演者…安元佐和（医学教育推進講座） 座長…朔 啓二郎
「福岡大学医学教育のあるべき姿」



講演された先生方を囲んで
（左から、安元先生、井上（亨）先生、仲村先生、後藤先生、朔医学会会長、森下先生、福田先生、柳瀬先生）

2. 福岡大学医学会第40回総会

- 1) 議事
 - ① 報告事項 ② 平成28年度会計報告および平成29年度予算案 ③ その他
- 2) 第19回福岡大学医学会賞授賞式
 - ① 開票結果発表 ② 授賞式
- 3) 閉会の辞 集会幹事 小玉 正太

新風

new phase

平成29年4月1日付けで
本学へ赴任、昇格された方に
自己紹介をしていただきました。

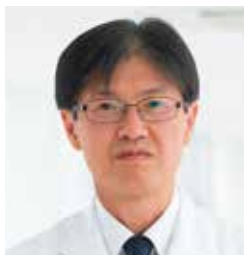


呼吸器内科学
教授
藤田 昌樹

平成29年4月1日より、渡辺憲太郎教授の後任として呼吸器内科学教授を拝命いたしました。私は、昭和63年に九州大学医学部を卒業後に、大学院（細菌学）、九州大学胸部疾患研究施設、アメリカコロラド州ナショナルジュイッシュセンターなどで呼吸器病学の研鑽を行い、平成19年から福岡大学へ赴任しました。

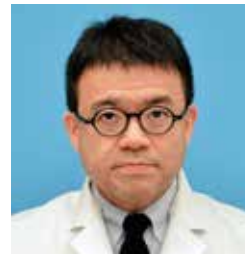
世界における2030年死亡原因の上位10位以内に慢性閉塞性肺疾患、誤嚥性肺炎を含む肺炎、肺癌の3つの呼吸器疾患が占めると予想されています。いずれも年齢と関連が深い疾患です。予想を超えるスピードで高齢化社会を迎えつつあるわが国では、これらの呼吸器疾患の占める比重がますます大きくなっていくことでしょう。初代吉田教授、二代渡辺教授と、呼吸器内科学は着実に進歩を続けて参りました。三代目として、ホップ、ステップ、ジャンプといくように、これら3大疾患をターゲットに据え、教室の発展に全力を注いで参ります。

大学病院の責任を自覚し、諸先生方にもご協力をお願いしながら、呼吸器疾患診療充実に邁進していく所存です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



心臓・血管内科学
教授
三浦 伸一郎

平成29年4月より福大医学部心臓・血管内科学教授および福大病院循環器内科診療部長に就任いたしました。私は、昭和63年に福大医学部を卒業後、福大医学部・病院および米国クリーブランドクリニックにて循環器疾患の診療・研究・教育に従事して参りました。今後も福大病院に勤務できますことを大変嬉しく思っております。当教室は、1973年4月に荒川規矩男名誉教授が「内科学第二」を開設され、2000年4月から朔啓二郎教授が主管し、内科学講座の改変により2007年4月に「心臓・血管内科学」と講座名が変更となり現在に至ります。また、福岡大学病院では、「循環器内科」を標榜しております。心臓・血管内科学は、私の専門領域は、「循環器疾患の予防医療」で、生活習慣病の厳格な管理を実施し、心臓リハビリテーションシステムを早期に構築し再発予防医療に力を入れ、患者さんのQuality of Life(生活の質)を念頭に治療を継続しています。今後も福岡大学病院の近隣の方々や医療機関のお役に立てますように一層努力して参りますので、今後も宜しくお願いいたします。



病理学
准教授
二村 聡

このたび、竹下盛重教授ならびに鍋島一樹教授のご推挙により、平成29年4月1日から准教授を拝命いたしました。よろしくお願い申し上げます。小職は福岡の炭鉱町で生を受け、平成7年に久留米大学医学部医学科を卒業後、直ちに東京慈恵会医科大学第1病理学教室に入局し、厳しい先輩方から病理解剖と外科病理学の基本を叩き込まれました。同時に、カタチの科学の面白さも教わりました。その後、国立がんセンター中央病院勤務を経て、平成16年10月に福岡大学に赴任し、消化管疾患を中心とした外科病理診断に従事する傍ら、講義・実習の他、消化器病診療に携わる臨床医と共同研究を行ってきました。その間、さまざまなことを学びました。今後も診療現場での問題点を共有し、臨床医との緊密な連携により相互理解を深め、診療に真に役立つ病理学的情報の提供を心がける所存です。また、病理医の絶対的不足という極めて深刻な事態にも肅々として対処すると共に、消化管病理診断学の短期研修コース(半年～2年間)を新設し、若手臨床医の教育に尽力する所存です。病理学は地味な学問ですが、必ず実臨床で役立ちます。消化管病理学に興味のある方はいつでもご連絡ください。



腎臓・膠原病内科学
准教授
升谷 耕介

平成29年4月1日より福岡大学医学部腎臓・膠原病内科学准教授、および福岡大学病院血液浄化療法センター長を拝命いたしました。私は平成6年に九州大学を卒業し、同第二内科(現病態機能内科学)に入局いたしました。大学院時代には中島衡現腎臓・膠原病内科学教授と共同でループス腎炎などの各種糸球体腎炎における免疫異常についての研究を行いました。大学院修了後は、主に移植腎病理と腎移植内科に関する研鑽を積みしました。平成20年からの2年間は米国ピッツバーグ大学で腎移植後BKウイルス腎症に関する研究を行いました。帰国後、九州大学病院腎・高血圧脳血管内科助教、同腎疾患治療部講師を経て、この度、再び中島教授のご推挙により福岡大学に参りました。

新天地である福岡大学において、より安全・確実な血液浄化療法を目指し、腎臓・膠原病内科においては、腎炎・ネフローゼ症候群から透析療法・移植まで幅広く対応できる腎臓内科医の育成を目指して参りたいと思います。何卒、ご指導、ご鞭撻を賜りますようどうぞ宜しくお願い申し上げます。



神経内科・健康管理科
准教授
緒方 利安

平成29年4月1日付で福岡大学病院神経内科准教授を拝命致しました。緒方利安です。

私は1997年に九州大学を卒業後、病態機能内科学に入局しました。その中には全国的にも数少ないのですが、脳卒中の臨床・研究を行っている脳循環研究室というグループがあり、そこに所属しました。国立病院九州医療センター、九州大学病院、聖マリア病院などで勤務した後に、2000年より国立循環器病センター内科脳血管部門にレジデントとして、3年間勤務いたしました。その際にエビデンスを基に、考察を重視した脳血管障害の臨床を、深く勉強することができました。また、神経超音波を用いての脳血管障害の臨床について研究を行い、とくに経頭蓋カラードプラ検査を用いての研究で学位を取得しました。帰福後は九州大学病院病態機能内科学、国立病院九州医療センター脳血管内科に所属後、2009年よりオーストラリアメルボルンのNational Stroke Research Instituteに留学いたしました。2011年より福岡大学脳神経外科、以降2013年以降神経内科に所属しています。

私は主に虚血性脳血管障害の内科治療や、神経超音波検査を行ったりしています。脳卒中健康講座を開設し、患者さんに最近の脳卒中の治療、日常生活の注意点などについてお話をしています。学生さんや研修医の先生の講義なども担当しています。他の外科の先生方に迷惑をかけないように精一杯がんばります。



内視鏡部
准教授
竹田 津 英稔

平成29年4月より向坂 彰太郎教授の御推挙により福岡大学消化器内科准教授を拝命いたしました。私は、平成8年に佐賀大学医学部を卒業し、同年4月より虎の門病院で2年間の初期研修を行った後、平成10年4月久留米大学消化器内科に入局いたしました。久留米大学および関連病院にて肝胆膵、消化管と消化器全般について勉強させていただきました。また、平成10年ボストンのMassachusetts General Hospital, Immunopathology Unit、平成18年ロサンゼルスCedars-Sinai Medical Center, inflammatory bowel disease centerに各2年間ずつ、米国留学を経験いたしました。平成20年以降は久留米大学で炎症性腸疾患を中心に臨床・研究・教育を行ってまいりました。平成28年10月より福岡大学消化器内科に所属し、消化管研究主任として消化管疾患の専門性を高め、近隣の先生方とより良い医療体制を築いていけるよう日々取り組んでおります。また、炎症性腸疾患の診断に有用な血清マーカーの探索、アンチセンスによる新規治療の開発、細菌と炎症性腸疾患の関連などをテーマに基礎および臨床研究も積極的に行っております。引き続き福岡大学医学部および病院の発展に貢献できるよう努力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しく願いいたします。



筑紫病院消化器内科
准教授
久部 高司

平成29年4月より植木敏晴教授のご推挙により福岡大学筑紫病院消化器内科の准教授を拝命いたしました。

私は平成6年に福岡大学医学部を卒業し八尾恒良教授が主催されて

いた福岡大学筑紫病院消化器科に入局しました。その後、先輩方の熱いご指導と後輩方のご苦勞のもと消化器病学の研鑽を積ませていただき、大腸疾患を専門として診療を行っています。近年、内視鏡機器の開発による診断精度の向上と、治療技術の向上により大腸腫瘍の多くが内視鏡で治療可能となり低侵襲な治療が提供できるようになりました。現在、大腸ESD/EMRガイドライン作成委員の一員として、安全で確実な大腸腫瘍の診断治療の普及に貢献できるように努めております。研究に関しては松井敏幸教授および八尾建史教授のもと、炎症性腸疾患の診断と大腸腫瘍の発育進展・診断治療を主体に臨床研究を行ってまいりました。

これまでの経験を生かして、診療技術と臨床研究の指導を通して若手医師の育成にさらに努力してまいります。また消化器疾患は、外科、病理部などの協力体制なくして診療を進めることはできません。各診療科との診療連携体制をより充実したものにしたいと考えています。今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。



放射線部第二
准教授
長町 茂樹

平成29年4月より福岡大学病院放射線部第二准教授、部長を拝命致しました。

昨年度まで宮崎大学医学部放射線科で放射線医学、特に核医学関連の診療、教育、研究を行って参りました。診療面では心臓核医学、脳核医学、腫瘍核医学診断分野に加えて治療分野においても甲状腺癌、甲状腺機能亢進症、骨転移や悪性リンパ腫の内照射治療に関わってきました。赴任後も診療、研究、核医学に関連する医学教育に携わっております。専門性の高い領域ではありますが、幅広く皆様と関わる領域でもありますので、何なりとお申し付けいただければ幸いです。また、管理業務として放射線取り扱い主任の仕事も兼務しております。東日本震災以後、厳しくなった放射線管理業務に関しても全力で取り組む所存です。今後ともご指導、ご鞭撻賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



薬理学
講師
田頭 秀章

平成29年4月より岩本隆宏教授のご推挙により福岡大学医学部薬理学の講師を拝命いたしました田頭秀章と申します。

私は、平成26年に東北大学大学院を卒業し、学位取得後、平成26年4月より、現所属の助教として採用していただき、平成28年4月より講師(4条7号)に昇格していただきました。

大学院では、循環器系疾患に対する新規作用機序薬の開発を目指した薬理学的研究により、学位を取得いたしました。東北大学大学院医工学研究科と共同研究させていただく機会もあり、医療機器の開発研究にも従事させていただきました。

福岡大学医学部薬理学では、イオン輸送体の生理学的・病態学的役割の解明を目指した基礎医学研究を精力的に行っています。これまでの研究成果から、イオン輸送体はさまざまな循環器系疾患に関わ

ていることが示唆されており、今後の興味深い創業標的であると考えられます。また、教育面では、M2の薬理学ⅠおよびM3の薬理学Ⅱの講義・実習の副責任者を担当しています。教育方針として、CBTや国家試験対策も踏まえながら、臨床実務でも役に立つ実践的な薬理学知識が習得できるよう、学生教育にもできる限りのエネルギーを注いでいます。

これからも福岡大学医学部の発展に微力ながら尽くしていく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



救命救急センター
講師
喜多村 泰輔

喜多村 泰輔です。平成29年4月から救命救急センターの講師を拝命いたしました。私は福岡大学を平成5年に卒業し、救命救急センターに入局いたしました。外傷治療に惹かれ福岡大学整形外科で整形外科の基礎を学び、熊本整形外科、総合せき損センターで整形外科・脊椎外傷の研修をさせて頂きました。その後、救命救急センターにもどり、外傷急性期における整形外科治療の研鑽をして参りました。重症外傷の患者さんの治療を行う中で、救命するには病院前救護から病院での救急治療、集中治療、専門の治療およびリハビリテーションまで、シームレスな治療が必要である事を学びました。しかし、重度の障害を残す患者さんも数多くおられ、生命予後だけではなく機能的予後考えた急性期治療が必要であると強く感じております。その後、福岡東医療センター・高知医療センターでの勤務経験でドクターヘリ・災害医療や責任者としての救急医療の勉強もさせて頂きました。搬入された患者さんを病院で治療するだけでなく、医師が現場に出動し、発症後・受傷後早期に治療を開始することで救命率の向上や機能的予後の改善が望めることを勉強しました。今後はこの経験を活かして、『攻めの救急医療』を実践して福岡大学病院と地域の救急医療システムの発展に微力ながら尽くして参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



皮膚科
講師
古賀 文二

皆様、はじめまして。このたび今福信一主任教授の御推挙により福岡大学病院皮膚科の講師を拝命しました。私は、平成12年に福岡大学を卒業し、先代主任教授である中山樹一郎教授の主宰する当教室に平成13年に入局しました。皮膚科を選んだ理由は、学生時代、肉眼的にどうみても同じにしかみえない皮膚所見に対して、これまた同じようにしか見えない病理組織像を検討することで、(見る人が見れば)的確に病気にアプローチできるプロフェッショナルな部分に魅力を感じたからです。あれから16年の月日が経ち、皮膚科診断学は変貌を遂げました。免疫学の進歩に伴い様々な疾患でbio-markerが確立され、他に遺伝子診断、AI、デルマトスコープなど技術の発展には目を見張ります。今後も基礎となる形態学を大切にしつつ、新しい検査法や治療についても積極的に学び、学生教育ならびに地域医療に還元できるよう精進していきたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

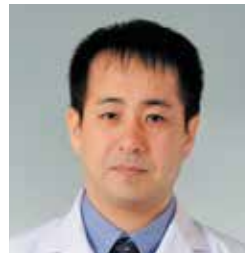


消化器内科
講師
森原 大輔

平成29年4月より、向坂彰太郎教授の御推挙により、福岡大学消化器内科講師を拝命いたしました。

私は、平成11年に福岡大学医学部を卒業し、福岡大学医学部第一内科に入局しました。臨床研修終了後は、現在の消化器内科肝臓研究室に所属し、福岡大学病院救命センター、白十字病院肝臓内科、虎の門病院分院肝臓内科に勤務し、主に肝疾患診療を中心に従事してきました。虎の門病院では、熊田博光先生をはじめ多くの先生方にご指導いただき、C型肝硬変患者における脾摘後インターフェロン療法の有効性について臨床研究を行い、学位を取得しました。一方で、平成27年4月からは、福岡大学医学部医学教育推進講座に所属となり、安元佐和教授の下、学生教育、学生講義のテクニクなどについて学びました。この春からは、消化器内科所属となり、ウイルス肝炎治療を専門として診療および臨床研究を行っています。

今後は、これまで学んできた臨床および教育の経験を生かして、福岡大学の発展、人材育成に貢献できるよう尽力してきたいと思ひます。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



再生医療センター
講師
吉松 軍平

2017年4月付けで小玉正太教授の御推挙により、再生医療センター講師を拝命しました。

私は、2000年に東北大学医学部を卒業し、その後10年間外科臨床に携わった後、東北大学消化器外科に入局し膵島移植についての研究を行ってきました。大学院では筋肉内膵島移植をテーマに間葉系幹細胞との共移植による効果を研究報告し学位を取得。大学院卒業後、膵島移植施設であるBaylor Research Institute(テキサス州ダラス)に3年間留学し臨床膵島移植を経験してきました。私のこれまでに取り組んできた基礎研究テーマは、学位のテーマ以外に、異種移植をターゲットにしたカプセル化膵島移植、microRNAを用いた新規バイオマーカーの探索、自然免疫の抑制による膵島移植の移植成績向上について研究を行ってまいりました。本学では再生医療と同様に自然免疫の制御についても大学院生を指導しつつ、引き続き取り組んでいきたいと思ひます。臨床面ではこれまで再生医療センターとして取り組んでいたヒト臨床膵島移植のプロジェクトを小玉教授の指導の下、継続的に取り組んでまいりたいと思ひます。福岡大学は膵島移植領域において臨床、研究の両方を併せ持つ全国トップクラスの施設であり、私としても力の限り頑張りたいと思ひます。また、当センターでは今後行われる再生医療全般について他科と協力して進めていく予定ですので、それらについても勉強しつつお手伝いさせていただければと思ひます。未熟者ではありますが頑張りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

教室だよ
Letter from a classroom

看護学科[地域看護学・在宅看護論・教職]

教 育

[地域看護学]

学部では様々な発達段階や健康段階の人々と地域を対象とした公衆衛生看護に関する講義(演習含む)12科目を担当しています。2年次のヘルスプロモーション実習では、社会福祉協議会、市町村等の高齢者の介護予防を中心とした活動への参加(21か所)や大学周辺の小学校区の地域踏査を通して、地域での人々の健康づくりについて学習します。保健師選択履修コースでは、4年次に行政機関で5単位の実習を行います。講義や演習で学んだことと実習を結び付けて捉え、理解が深まるよう、健康教育、家庭訪問、健康相談、地域診断等の学習課題を連動させる等の工夫をしています。大学院では看護研究や地域健康支援に関する6科目の他、特別研究を担当しています。

[在宅看護論]

看護教育として在宅看護論領域では2年生の講義(演習含む)を2科目75時間担当し、3年生には臨地実習(訪問看護ステーション:24施設)を行っています。講義・演習・実習を通して、さまざまな年齢(小児から高齢者)や健康レベル(急性期から終末期)に応じた在宅看護を習得し、多職種と協働する中での看護の役

割やケアの支援体制などについて探求しています。当領域では毎週水曜日に家族看護に関する抄読会を行い、日々研鑽を積んでいます。

[教職]

看護学科教職課程は、看護学の学びを活かし、児童生徒の健康と幸福のために社会貢献できる養護教諭や高等学校教諭(看護)の育成を主な使命としています。学内や現場の先生方のご指導ご協力のおかげで、養護教諭については平成28年度卒業(6期生)迄の間に113名が一種免許を取得し19名が現職にあります。高校教諭の履修が少ないことが課題ですが、多様性や制約の中で学生の進路希望に沿うことができるよう、日々の教育実践に努めたいと思います。

研 究

[地域看護学]

地域の中で人々がいきいきと自分らしく暮らしていけることを目指し、様々な研究に取り組んでいます。公的資金を活用した研究には、子育て支援プログラム開発、認知症の介護者支援のガイドライン開発、里親支援のための行政保健師教育プログラム開発などがあります。

[在宅看護論]

在宅における認知症ケアや介護者支援、排泄ケア、地域包括ケアシステムの課題などについて公的資金による研究助成を獲得し取り組んでいます。研究成果は、国内だけでなく海外の学会にも多数発表しています。また、最近では日本認知症ケア学会九州・沖縄地域大会及び講演・事例検討会の運営に携っています。

[教職]

子どものヘルスプロモーションに関する学校保健看護学や生涯発達看護学の研究をしています。公的資金を活用した研究には、「養護教諭を組織的に支援する保健室経営計画ガイドラインの作成」などがあります。



医師国家試験結果報告

第111回医師国家試験(平成29年2月11~13日実施)に108人が受験し、85人(新卒77人・既卒8人)が合格しました。合格率は78.7%、新卒のみの合格率は82.8%でした。

看護師・保健師国家試験結果報告

第106回看護師国家試験(平成29年2月19日実施)に98人が受験し、96人(新卒)が合格しました(合格率98%)。また18人(新卒)が第103回保健師国家試験(平成29年2月17日実施)を受験し、18人全員合格しています(合格率100%)。

祝 第19回 福岡大学医学会賞

50音順



福田 高士

Augmented Growth Hormone Secretion and Stat3 Phosphorylation in an Aryl Hydrocarbon Receptor Interacting Protein (AIP)-Disrupted Somatotroph Cell Line



森下 登史

Changes in Motor-Related Cortical Activity Following Deep Brain Stimulation for Parkinson's Disease Detected by Functional Near Infrared Spectroscopy: A Pilot Study



後藤 昌希

Rivaroxaban, a factor Xa inhibitor, induces the secondary prevention of cardiovascular events after myocardial ischemia reperfusion injury in mice



仲村 佳彦

Recombinant human soluble thrombomodulin ameliorates cerebral ischemic injury through a high-mobility group box 1 inhibitory mechanism without hemorrhagic complications in mice

教室だよ

Letter from a classroom



看護学科[専門基礎・老年看護学・助手]

[専門基礎領域]

学科開設を迎えた19名の教員のうち、10年半を全うしている教員はわずか5名になりました。うち2名が専門基礎領域の我々医系教員です。1、2年次生に看護実践の基礎となる解剖生理学(からだの構造と機能I・II)、臨床医学(疾病の成立と回復の促進I・II・III)、薬理学(薬のはたらき)、微生物免疫学(からだの防御のしくみ)、栄養学(食と生活)およびチーム医療を教授しています。その我々もあと最長2年半です。しっかり学科をサポートしてゆきます。

[老年看護学領域]

教 育

老年看護学は、高齢者の身体的・心理的・社会的側面を理解し、看護によるQOLの維持・向上のための方法を学ぶ学問です。老年看護学領域の教員は主に専門科目である、「老年看護学概論」、「老化と看護」、「病気をもつ高齢者の看護」、「老年看護学実習」を担当しています。

わが国の高齢化率は26%を超え、2060年には40%に達することが予測されています。入院患者の70%が高齢者であり、総死亡率の88%が高齢者です。国は持続可能な医療保険制度、健康寿命の延伸を目指して医療制度改革を推進しています。老年看護学ではこのような社会を背景として、医療施設内の看護だけでなく、地域包括ケアシステムにおける看護の役割についても考え、社会の期待に応える看護師の育成を目指しています。

また、認可済みの段階でストップしている修士課程の講義開始の準備をしています。

研 究

現在、「地域在住高齢者のレジリエンス・トレーニングのプログラム開発に関する研究(文部科学省科研基盤研究(C))」、「在宅ホスピスでの患者と家族へのナラティブアプローチに関する研究(文部科学省科研基盤研究(C))」、「後期高齢者の医療費最適化に向けた日本流服薬コンソーダンスのモデル構築(文部科学省科研基盤研究(C))」、「老年看護の日韓比較研究(平成29年度領域別研究チーム研究テーマ)」、「『ときどき入院、ほぼ在宅』を支える地域包括ケア病棟における看護実践の課題に関する全国調査(一般

社団法人日本在宅ケア学会研究助成)」他、高齢者に関する様々な研究に取り組んでいます。また、長期在外研修制度にて韓国高麗大学にて研修を行い、研究に取り組んでいます。

[助手]

看護学科全体で助手は3名ですが、学科全体の多岐にわたる領域の実習や演習において、学生教育に参加しています。3名の教員は、それぞれ異なる経験と背景を持ち、自立して教育・研究・社会貢献の活動に取り組んでいます。教員としては、学生の意欲と主体性を引き出し、自分で考えることの重要性を育むことに努めています。研究においては、母子・心理・在宅やジェンダーなどそれぞれが興味を持っている分野で、学会発表や論文投稿に力を注いでいます。社会貢献については、産業や市政などと共同で、活動の企画や運営、運営サポートに参加してきました。また、学会の実行委員として学会運営にも積極的にたずさわってきました。今後もそれぞれが、学生教育を通して、それぞれの分野で持ち味を出しつつ、学科の発展と自己の成長に邁進していきたいと思っています。



長い間ありがとうございました

平成29年3月1日～平成29年9月30日までに退職された方

- 坂田 則行 教授 (総合医学研究センター)
- 山下 裕一 教授 (総合医学研究センター)
- 桑原 康雄 教授 (放射線部第二)
- 風川 清 教授 (筑紫病院脳神経外科)
- 喜多 紗斗美 准教授 (薬理学)
- 笹富 佳江 准教授 (腎臓・膠原病内科)

- 山内 靖 准教授 (手術部)
- 阿南 章 講師 (消化器内科)
- 伊東 威 講師 (再生医療センター)
- 竹本光一郎 講師 (脳神経外科)
- 松本 直通 講師 (臨床検査部)

以上、3月31日付け

- 相川 博 准教授 (筑紫病院脳神経外科)
- 藤光 律子 講師 (放射線科)

以上、9月30日付け

教室だより
Letter from a classroom

心臓・血管内科学

心臓・血管内科学講座は、2017年4月より三代目教授の三浦伸一郎先生によって主管されております。福岡大学病院では、「循環器内科」を標榜しています。循環器内科では、虚血性心疾患、不整脈疾患、末梢血管疾患、弁膜症、心不全、心膜・心筋炎、心筋症、肺高血圧症などの心臓・血管疾患と、冠危険因子の高血圧、脂質異常症、糖尿病、痛風、肥満などの代謝性疾患に対し日常臨床を実施しています。

当科への入院患者数は、約1300名/年、心臓カテーテル検査数は、約1,100件/年、経皮的冠動脈・下肢動脈形成術は約400件/年、急性冠症候群の収容数は約100件/年であり、特に、経皮的形成術はトップクラスの治療成績を誇ります。不整脈疾患では、電気生理学検査を約150件/年、最新治療法を展開するカテーテル心筋焼灼術約150件/年、ペースメーカー及び除細動器(ICD)の植え込み術約100件/年であり、大学病院としては非常に多くの患者さんへ最先端の検査・治療を提供しております。外来診療では、毎日、必ず4～6名の循環器内科担当医が診療をし、近隣医療施設からの相談や胸部疾患の救急患者の受け入れにも24時間対応しています。

最近の循環器疾患による死亡率を見ると、急性心筋梗塞による死亡率は年々減少し、心不全による死亡率が急激に上昇しています。さらに、2025年問題として、「心不全パンデミック」という現象が懸念されています。これは、高齢化で心不全患者数が現在よりも約20万人も激増し、再入院も頻発してくるという現象です。このパンデミックにより、循環器医療への負荷が増大し、破綻の可能性が指摘され、その対策が急務となっています。そこで、心臓リハビリテーションシステムを早期に構築し、乾式サウナ装置による心不全に対する非侵襲的最先端治療などをはじめとした循環器疾患の再発予防医療に力を入れ、患者さんのQuality of Life(生活の質)を念頭に治療を継続しています。

また、当講座では、一般内科から循環器専門まで診療できる医師育成につとめ、多くの臨床試験を企画し、様々な先端治療や臨床エビデンスを創出し、教室全体に活気があり人を育てる環境にあります。さらに、教職員一同、患者さんへの「断らない医療」を展開しており、今後もなお一層努力して参りますので、宜しくお願いいたします。



学位取得

次の方は、福岡大学より博士(医学)を授与されました。

課程修了による学位取得者

- | | | | |
|-----------------|------------------|------------------|------------------|
| ・吉田 祐士 (生体制御系) | ・大津 健聖 (病態構造系) | ・内藤 淑子 (先端医療科学系) | ・宮原 大輔 (先端医療科学系) |
| ・金城 健 (病態構造系) | ・立川 量子 (先端医療科学系) | ・井原由紀子 (先端医療科学系) | [平成28年9月13日付け] |
| ・祝原 由莉 (人体生物系) | ・瀬尾 哉 (病態機能系) | ・松田 道隆 (病態機能系) | ・前原 都 (先端医療科学系) |
| ・田中 由香 (人体生物系) | ・南川 智彦 (病態機能系) | ・高山 みお (社会医学系) | ・足達 宣 (先端医療科学系) |
| ・大山 拓人 (生体制御系) | ・菱川 創 (病態機能系) | ・石田 紀久 (先端医療科学系) | ・上田 隆士 (先端医療科学系) |
| ・大門 康子 (病態構造系) | ・浦川 博史 (病態機能系) | ・井手元良彰 (先端医療科学系) | ・上田 智之 (先端医療科学系) |
| ・千住 緒美 (病態構造系) | ・西田 武司 (病態機能系) | ・柴山 慶継 (先端医療科学系) | ・杉原 英和 (先端医療科学系) |
| ・今村 健太郎 (病態構造系) | ・仲村 佳彦 (病態機能系) | ・福田 高士 (先端医療科学系) | ・本里 康太 (先端医療科学系) |
| ・田代 学 (病態構造系) | | | [平成29年3月21日付け] |

論文提出による学位取得者

- | | | | |
|----------------|----------------|------------------|-------------------|
| ・坂 暁子 (病態構造系) | ・藤岡 伸助 (病態構造系) | ・古賀 文二 (先端医療科学系) | ・山田 和之介 (先端医療科学系) |
| ・大谷 圭介 (病態構造系) | ・藤光 律子 (病態機能系) | | [平成28年9月27日付け] |
| ・福田 健治 (病態構造系) | ・梅村 武寛 (病態機能系) | ・塩飽 洋生 (先端医療科学系) | ・田邊 真紀人 (先端医療科学系) |
| | | | [平成29年3月21日付け] |